

答 辞



例年になく過ごしやす
暖冬が終わり、柔らかな日
差しと自然の息吹に春の訪
れが感じられるようになり
ました。
日々私たちを教え導いて
くださった先生方、そし
て、この場にはいらっしや

いませんが、温かく見守り続けてくださった
保護者の皆様、これまで本当にありがとうございました。
私たちが三年生は、すばらしい思い出とともに、
今日、秋田中央高校を卒業します。
思い返すと、この三年間は本当にあっとい
う間でした。
仲間と過ごした、あの何気なく、当たり前前
の日常が、今となってはかけがえのない時間
であったと心から思います。

全校が一丸となって取り組んだ学校祭や球技大会。当日を待ち遠しく思いながら夜遅くまで準備に励んだり、声を枯らしながらクラスメイトを夢中で応援したりしたことから、大きな感動と達成感を得ることができました。また、今年は部活動でも多くの仲間が躍動しました。

「夢は目指すだけではなく、叶えるもの」この言葉を体現し、私たちに自信と誇りを与えてくれました。

野球部の四十五年ぶりとなる甲子園出場、二年連続となるラグビー部の花園出場をはじめ、水泳のインターハイ出場やスケートでの国体出場、躍進探究部、美術部なども全国レベルで活躍しました。この輝かしい実績は、毎日の努力と部員全員の団結が基盤であり、まさに秋田中央高校の「底力」であったと確信しています。

私たちの高校生活は、仲間と友情を育み、仲間と切磋琢磨し、仲間と更なる高みを目指

した「最高の三年間」でした。

明日からは、秋田中央高校で学んだ全てのことを糧とし、常に自信と謙虚さ、チャレンジ精神を忘れずに一步一步自分の人生を歩んでいきたいと思えます。

令和二年度、いよいよ秋田中央高校は創立百周年という大きな節目を迎えます。

これまで卒業した二万六千五百九十六名の礎のもと、在校生として百周年を迎える一、二年生が、伝統と歴史を一層発展させるよう、次の世紀への新たな躍進、その先駆けとなつて活躍してくださることを心から期待しています。

最後に、これまで私たちを支えてくださった全ての方々に改めて感謝を申し上げ、答辞とさせていただきます。

令和二年三月一日

卒業生代表 沢井 冨